# 福生市介護保険事業計画（第７期）における介護予防・自立支援等の取組と目標及び評価

| 第７期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | 令和元年度（年度末実績） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 区分 | 現状と課題 | 第7期における<br>具体的な取組 | 目標<br>（事業内容、指標等） | 実施内容 | 自己評価結果 | 課題の解決に向けた質の評価 | 課題と対応策 |
| 自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が急速に進行する中、高齢者が地域で元気に暮らしていけるよう、地域による介護予防活動の推進が必要である。 | 介護予防に関する正しい知識を普及啓発し、活動を広めていくために、介護予防リーダー養成講座を実施して介護予防リーダーを増やす。これによりリーダー同士のつながりができ、活動が活性化することで健康長寿のまちを目指す。 | 介護予防リーダー養成人数<br><br>平成29年度　15人（実績）<br>→　令和2年度目標　60人 | 介護予防に関する正しい知識の普及啓発と活動を広めるために、介護予防リーダー養成講座を実施し、介護予防リーダーを増やした。また、卒業生のフォロー講座や連絡会を行い、介護予防リーダーの活動を支援した。 | 自己評価結果【○】<br><br>数値目標は令和2年度で60人，令和元年度まで（第1～3期生）で40人である。第1，2期生の活動支援や3回の介護予防リーダーフォロー講座や連絡会を行い、卒業後の介護予防リーダーのサポートに努めたことも含め、数値目標達成とする。 | 市は、介護予防リーダー第1、2期に、令和元年度3回の介護予防リーダーフォロー講座を行い、養成講座で学んだ知識の復習や他市の介護予防活動の情報提供を行った。また、市の介護予防イベントでリーダーが活躍できる場を設けたり、ふくふく福生体操を一緒に地域で披露する機会をつくり、自分たちができる介護予防活動について考えていけるよう支援を行った。 | ＜課題＞<br>介護予防リーダー養成講座修了後の活動について、市ではリーダーの自主的な活動を促しているが、なかなか活動につながっていない。<br><br>＜対応策＞<br>既存の高齢者の集まり等に職員が介護予防リーダーと出向き、ふくふく福生体操を一緒に行うなど、リーダーが地域で介護予防活動を行うきっかけ作りを行う。<br>介護予防リーダー連絡会でのリーダー同士情報交換する場をもち、リーダー自身が楽しくやりがいを持ってできることをまずは何か始めてみて、自信が持てるよう支援していく。 |
| 給付適正化 | 利用者の生活に大きく影響するケアプランが、本来の目的である自立支援に資する適切なケアプランなるよう、介護支援専門員の資質向上を図る必要がある。 | ケアプランがケアマネジメントの過程を踏まえた適切なものであるかを介護支援専門員とともに検証確認し、健全な給付の実施を図る。 | ケアプラン点検実施件数<br><br>平成28年度　1件（実績）<br>→　令和2年度目標　6件 | 介護給付の適正化を図るため、介護支援専門員とともにケアプラン点検を行った。 | 自己評価結果【○】<br><br>数値目標は令和2年度6件で、令和元年度は4件であった。新型コロナウイルス感染症の影響がなければもう1件行う予定だったこと、点検を行った介護支援専門員のケアマネジメントの再確認や、気づきにつながったことも含め、数値目標達成とする。 | 都のケアマネジメントの質の向上研修会を修了している介護支援専門員に対してケアプラン点検を計画的に行っているところである。点検を行った介護支援専門員からは、ケアプランの本来の目的や意義についての再確認や、市職員（介護支援専門員の資格有）の意見をきくことで気づくことも多かったとの意見をいただいている。<br>今後は、第8期計画に向け、更なる質の向上、また、ケアプラン点検修了者による他の介護支援専門員の人材育成につなげたい。 | ＜課題＞<br>令和元年度の目標は達成としたが、現状のやり方では、第8期計画での更なる質の向上を考えると、最終目標の年間6件以上は職員数の問題でかなり難しい。<br><br>＜対応策＞<br>他市の実施状況を参考にして、集団によるケアプラン点検の実施や、ケアプラン点検修了者による他の介護支援専門員へのケアプラン点検等を検討する。 |